

注目するファンドマネージャーの運用本数より、 運用のタイプをチェックする

ファンドマネージャーを見るときは
ここに注意！！

会社によっても違いますが、ファンドマネージャーはたいてい何本か自分が運用するファンドを持っている。例えば昔は転換社債を組み入れるファンドも運用していれば、株に投資するファンドも運用するという具合に、まったく投資対象の違うファンドを運用しているファンドマネージャーもいました。しかし、今は自分の得意な分野で、自分のスタイルに合ったファンドを何本か運用する方向になってきているようです。

したがってファンドマネージャーを見るとき注意しなければいけないのは、ファンドの本数ではなく持っているファンドの種類です。つまり、どんなタイプの

ファンドを運用しているのかなのです。

10本のファンドを運用している場合、さまざまなタイプのファンドを運用しているケースもあれば、まったく似たようなファンドを運用しているケースもあります。例えば、「フィデリティ・シャパン・オープン」と「フィデリティ日本成長株ファンド」は同じファンドマネージャーが運用していて、組み入れ銘柄もほとんど同じで、パフォーマンスも似ています。

このようにほぼ同じファンドを複数運用するパターンだといいますが、あまりにも運用するファンドの内容にバラつきがあると困ります。世界株も運用し、日本株も運用するというのでは、とても範囲が広すぎて目が届かない状況になりかねません。

自分が買いたいファンドに、ファンドマネージャーがどのくらいの時間とパワーを割いてくれるのか、投

資家にとっては重要な問題なのです。ファンドマネージャーがどんなファンドを何本運用しているかという情報を得るには、運用会社が販売会社に聞くしかありません。ファンドマネージャーを前面に出しているファンドなら、ファンドマネージャーの実績を必ず公表

していますから、そこで知ることができます。ファンドマネージャーでファンドを選ぶなら、その

くらいには調べたほうがよいでしょう。

いろいろなタイプのファンドマネージャーがいる

ファンドマネージャーが投資する銘柄を選ぶとき、どんなことを重視するのか、選び方はほんとうにさまざまです。たいてい数ある会社の下調べをアナリストにやってもらって、その中から本当に投資しようと思っ

みて、「この社長なら」と、財務内容がよくなくても将来性を買っファンドマネージャーもいるのです。

たとえば「ゴールドマンサックス投信の中小型株の運用を専門とするポートフォリオ・マネージャー 藤野菜人氏は、小さい会社の場合は経営者の考え方がそのまま売上げなどに反映するので、経営者を重視するとい

います。「投資するかどうかわ迷ったときは、最後は経営者の目で決める」そうです。「目の底に炎が見えるかどうか」。また社長室もよく観察しています。社長室にゴルフセットがあったらその会社はダメとか、スリッパに履き替える会社はダメとか、何社も会社訪問をするうちにそういった法則も見つけたといっています。

また藤野氏は、次のような確固とした投資哲学をもっています。一般の人にも、非常に共感できる考え方なので、ここに紹介しておきましょう。

「前略(自由競争を尊ぶアメリカのモデルを導入したのはよいものの、日本には社会的な安全弁というシステムがないのです。ごく少数の人だけに富が偏在し、それが還元されなくなってしまうことが十分に考えら

れるのです。(中略)わたしは投資信託という世界の中心で、資金の還流を起したいという意識を強くもっています。たとえば、(中略)優秀でありながらも世の中に知られていない企業にも投資をしたいのです。投資信託が幅広く運用されることによって、強烈にひとり勝ちをする企業が出てくるもの、成長過程にある小規模な企業にもお金をまわすことで、過度のひとり勝ちを抑えられ、日本がうまくまわっていくと思うのです。』『伸びる会社、ダメな会社の法則』藤野英人著・講談社 新書より)

アポロン・アセット・マネジメントの宇佐美博高氏は、会社訪問の前には入念に情報収集をしておいて、いろいろと経営者にアドバイスをするのだそうです。『御社のこのところが弱みじゃないですか？』『こういう風にしたほうが、いいんじゃないですか？』経営者に苦言を呈する人などそういないので、アドバイスされた経営者は非常に喜ぶのだとか。そのうち「ここはどついたらいいだろう」と相談を持ち掛けられるようになり、ますます情報が入ってくる。まさに「与えて取

ファンドマネージャーの善し悪しを判断するのは販売会社の仕事！

それでは、どんなファンドマネージャーが、いいファンドマネージャーなのでしょうか？ いろいろな定義が考えられるでしょうが、例えば、「ものごとの大局が見える人。長いスパンで経済の流れなどがイメージできる人」といえるかもしれません。目先を追っている人、すぐに力尽きてしまう。これは経営者にもいえることですが、やはり余裕を持って、10年先、20年先の見える人が成功するのではないのでしょうか。

しかし、投資家がファンドマネージャーを1人1人チェックして、ほんとうにいいファンドマネージャーを選ぶのには限界があります。本来、ファンドマネージャーの善し悪しを判断するのは販売会社の仕事。たとえば、すいかでもみかんでもいいのですが、八百屋で商品を購入する前に、作った生産者の質を見極めるのは八百屋の仕事なわけです。きちんとしたいかを作っている生産者なのかどうか。買い手もちろ

る「作戦」でもいえるでしょう。

もう一方で、アクティブ運用のファンドマネージャーでも、あまり会社訪問をしないという人もいます。数字をずっと並べてみると、そこからゆがみや見落とされている成長企業などが見えてくるというのです。さわかみ投信の澤上篤人氏も、あまり会社訪問をせず、リサーチをしてあとは徹底的に自分の頭で今後どうなるかを考えるそうです。どうしてもわからないところや、自分の描いているシナリオと相違点があれば、最後にその会社へ行って確かめるそうです。

このように、ファンドマネージャーとひと口にいてもさまざまなタイプの人が出て、その人によって投資哲学なり、投資スタイルが違つたことを知っておきましょう。そして、どの手法が有効であるかはわかりませんが、自信をもって自分の手法をがんばることに貫いているファンドマネージャーに期待すべきではないでしょうか。

ん品物を吟味しますが、それ以前にいい品物を売ってなければ、話にならないのです。

ファンドでいえば、八百屋に当たるのが証券会社や銀行などの販売者です。販売者が店にいい商品を並べてくれないと、消費者としてはいい品物を買えません。だからわれわれ投資家は、生産者を見極めて品揃えをしてくれる販売会社を選ぶべきなのです。

販売会社へ行ったらファンドの生産者(運用担当者)とか、味(運用成績)とかをいろいろと聞いてみてください。答えられないようでは失格です。

ほんとうにお客さんのことを思っている販売会社なら、自信を持っていい商品を揃えているはずです。

ファンドマネージャーでファンドを選ぶことのリスクとは？

ファンドマネージャーでファンドを買うことは悪いことではありません。ただ、リスクがあることを覚悟しておくことです。2000年は、カリスマと呼ばれ

ファンドマネージャーのここに注意!!

運用しているファンドの本数

-
- ここに注目!!



運用しているファンドの種類

- ▶ 同じ種類の運用ならよいが、種類がバラバラな場合、それぞれに目が届かないことも



要注意!!

たファンドマネージャーたちの移籍が目立ちました。別の運用会社に移籍したり、自分で運用会社を立ち上げたりと動きはそれぞれですが、その結果、彼らがこれまで運用していたファンドの担当をやめてしまうということが起こりました。

ファンドマネージャーでファンドを買ったのに、ファンドマネージャーが変わってしまうという事態は、移籍以外にも病気や事故などいろいろな原因が想定されます。そこはあらかじめ覚悟しておいたほうがいいでしょう。